

牧師所感： 圏囲の兄弟からの手紙

筆者は圏囲の兄弟達と長い間、文通を通してキリストにある交わりを続けてきている。文通を交わしている兄弟達は数人が居て、日本の地域から言えば、仙台、福島、岐阜、加古川の地を挙げることが出来る。

ところで福島、仙台、加古川にいた兄弟達は刑期を終えて、社会に復帰している。

さて、現在文通の交換を続けている兄弟達は、二人共に岐阜刑務所にて、服役中である。筆者は高齢で、キリストイエスの父なる神様からのお召しがあるまで、この世で神様から与えられている使命に生きる者である。

そのうちの一人 I.S.兄弟は、キリスト者になっていて、筆者とは信仰を同じくする兄弟として交わっている。他の兄弟は信仰者にはなっていないが、文通を交わす相手柄である。さて最近筆者は体調を崩して病院に入院することとなって、15日目に退院した経験を持つ。そのことを知った I.S.兄弟は入院の消息を聞いて心を痛め、下記の恵文をしたためて筆者に贈ってくれたのをここに掲載する。

申 鉉錫 様

ご待降節 繁多の折から、先生始め皆様には 尚 ご精励のことと拝察いたします。

寒気 日増しにつのり、冷え込みの厳しい日が続いて居りますが、体調くずされたりして居られませんか。私の方は相変わらずの日々で健康を守っていますのでご安心ください。先生宛に去る 2月 19 日付で 私信 認めさせていただきましたが、一向に返信が届かず諸々思い悩み、涙に暮れています。

先生から届いた過去の書簡には、I.S.兄弟の事は今後も支え、要望に応えて行く、と言う内容の書簡があります。5通程届いています。一番の頼り処の先生から 信書が届か無いのが辛く、悲しく、寂しく、苦しく情け無いです。

毎週届く牧師所感を拝見する限り、先生の身体のことも心配でなりません。

私自身の朝晩の祈り中で、先生のお身体を悪くされ、入退院を繰返しされている事、所感に記されているのを拝見すると留処も無く涙が零れ、胸が締め付けられます。快方されるよう祈りしてます。

私の満期日は 2036 年 2 月 6 日です。あと 11 年少々あります。先生に宛てた私信に、私が社会復帰する時は 先生のご年齢は 102 歳に成られます。それまで元気で居てください。先生のご長寿を日々お祈りしています、と記したところ、君は私の長寿を願ってくれている事、非常に嬉しく思う。I.S.兄弟の手紙と祈りに支えられ、日々健康で過ごすことが出来ている、感謝すると記された手紙が私に届いた。一日たりとも 先生の健康とご長寿の祈りは欠かした事はありません。

下に記した「聖きキリストのとておき」、「神の意向によって仕える」、「御心を求める祈り」を先生が発行される牧師所感に掲載される事を祈って、擲筆かくひつとさせていただきます。向寒の折、呉々も健康にご留意され、お体大切にして感冒の予防に努めてください。

先生のますますのご活躍をご長寿をお祈りしています。

2024 年 12 月 14 日 記

I. S.